

一、役長柄二間半、柄黒ぬり、さき六尺金の笛巻、黒鳥毛
与及承候。彌其通に可仕哉之事。

一、鍵印白き馬尾、六組々中共同事に可有御座哉之事。

一、元和之御軍役之由にて、私共及承候通、別紙に書記奉
入御内見候。彌此通に可有御座候哉之事。

右奉窺候。以上。

極 月

平岡 五左衛門
半田五郎左衛門
藤田平兵衛
津田 内記
山崎半左衛門
永井傳七郎

享保十二年六月十八日、越後屋敷御土藏に先頭中入置候
箱、御月番長九郎左衛門殿に中村雅樂申達、五十嵐少兵衛
被遣、箱取出し致拜見、兩封印仕置候。入目録之寫。

入 目 録

一、馬じるし紙形

左右二つ

一、御番頭指物紙形 左右二つ
一、御小將指物紙形 左右二つ

一、足輕指物紙形 二つ

一、役旗まねき紙形 一つ

九つ先年上置候品々被返下候分

一、馬じるし紙形 左右二つ

一、御番頭指物紙形 左右二つ

四つ。御發駕以前追而上申品々被返下候分

都合十三包

己巳四月 日

一八 大小將組頭・番頭勤方之事

起請文前書

一、私共組中萬端無依怙最負、順路に可致裁許事。

一、同役相談之節、全以不立私之意地、御爲第一に可奉存
候事。

附、僉議之是非一切取沙汰仕置候事。

一、組中若不覺悟之者有之候はゞ、急度加異見、於不致承

引は言上可仕事。

一、於御前諸事御尋之品并御請之趣、聊他言仕置候。惣
而御近邊之儀、一圓相漏申置候事。

一、御尋之儀、其外組中之善惡、以御内々於言上仕は、不
依何事有躰に可申上事。

右條々雖爲一事、存曲折致違犯者、(神文靈社に而無之)

覺

一、私共之内御當地に有合不申刻は、相組之頭右不有合者
之組裁許可仕儀に御座候哉之事。朱書。昨日申渡候。

一、御番頭之内有合不申節、相組之御番頭方より、右不有
合御番頭觸次等爲勤可申哉之事。朱書。昨日定書に在り。

一、書付等添書を以上申候時分は、相組頭と連判を以上可
申哉。朱書。依品相組連判又は一判又は六人共連判。

右奉窺候以上。

十二月朔日

平岡 五左衛門
藤田平兵衛
永井傳七郎

差圖に可有之候。

津田 内記
山崎半左衛門

但、半田五郎左衛門は江戸御使故除之。

御印物之内

一、番頭不在合時は、小將横目可爲其代事。

一、御番頭之内在合不申候時、相組之御番頭方より右不有
合御番頭觸次第爲勤可申哉之事。

右之通に御座候得ば、御横目に言上之外は、諸事御番頭同
事に觸頭等可申談候哉。但、此儀は品可有御座候哉奉窺候。
以上。

十二月八日

平岡 五左衛門
半田五郎左衛門
藤田平兵衛
永井傳七郎
津田 内記
山崎半左衛門

朱書。此儀はやがて様子委細に可申付候。其内先存寄之
儀、定書之通各申談、若又番頭指當不有合候はゞ、申觸